

1. 認知症高齢者グループホーム 第三者評価報告概要表(WAM NET掲載用)

グループホームCHIAKI ほおずき 播磨町

○評価実施期間 平成 17年 11月 9日 から 18年 3月 1日
 ○訪問調査日 平成 17年 12月 9日
 ○評価機関名 特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所

○評価調査者 No.G04028(学識経験者・心理士・キャリアコンサルタント)
 No.G04029(社会福祉士・福祉住環境コーディネータ
 障害者就労支援指導者)

○グループホーム所在地 兵庫県加古郡播磨町二子817-1

○開設年月日 平成 15年 1月 15日

○定員 (2)ユニット (18)名

○第三者評価結果

◇全体を通して

【法人全体として…】

●CHIAKIほおずき法人本部を姫路市に置き、県内8ホームを展開している。各ホーム施設長会議や合同勉強会も実施され、複数ホーム経営にありがちな「画一化されたケア内容」ではなく、各施設長をトップに、理念に基づいた特色のあるケアを工夫・努力し、それぞれの施設カラーを出すことができています。「組織力としての合理性・機能性を活かしながら、ケアには各事業所の個性を重視する」という理想的形態である。本部による職員採用、新人研修、社員管理や、人事考課制度の導入など人材育成体制も充実しており、現場の職員が入居者へのサービスに注力できる環境が整っている。

●今後も、継続的な人財育成とともに法人理念の浸透をケアサービスに活かし、各グループホーム内で具体的に行なわれた取り組みを本部組織の中で強化し、その特色を今後の展開につなげていけるよう、更なる充実を期待したい。

【CHIAKIほおずき播磨町は…】

●JR土山駅から南へ徒歩約10分の場所に、CHIAKIほおずきの3つめ事業所として開所した。周辺は田畑も多く見られる静かな住宅地。近くに大型スーパー等の商店もあり、生活には便利である。ホーム裏側には大きな池があり、格好の散歩コースでもある。ただ、パンフレットやホームページ上の地図に間違いがあるため、早急な訂正を要する。

●「できるだけ地元へ溶け込んで…」という施設長の方針の下、施設長自らが自治会の「いきいきサロン」へボランティアとして参加するなど、地域住民との交流が盛んに行なわれ、自治会長や老人会長との親交もある。地元ボランティアグループ、見学者、研修生等の受け入れや家族の協力も多々みられ、外部の眼によるチェック機能がごく自然に働いている。また、ホームでの各種行事や教室も数多く開催されているため、入居者にとって生活の選択肢が広い。近所の鮮魚店による御用聞きでの来所や、地元商店への日用品の発注など日常の何気ない取り組みにより、近隣との調和がスムーズになされ、施設が地域の中でも心地よく存在している。地元密着形態の良い実践例と言えます、今後も更なる地域開放に期待したい。施設長の介護サービスに対しての前向きな思いや努力が地元の方々にも伝わり、地域社会でホームの存在意義が深まってゆく様子がうかがえる。

◇分野・領域別

I 運営理念

番号	項 目	できている	要改善
1	理念の具体化と共有	○	
2	権利・義務の明示	○	
3	運営理念等の啓発	○	

特記事項

- 「えみがこぼれる家庭…それが私たちのほこりです」が法人の基本理念。
- 今年度のホームテーマは「丁寧・信用」。元気に挨拶し、丁寧な言葉使いと対応を心掛けている。
- 職員は各自の個人目標「マイチャレンジ」を設定し、これを通じて理念の具体化と共有を図っている。
- 本部においては、パンフレット、ホームページを作成するなどをもって運営理念等の啓発を行い、ホームでは「ほおずき通信」を毎月発行している。

II 生活空間づくり

番号	項 目	できている	要改善
4	馴染みのある共用空間づくり	○	
5	共用空間における居場所の確保	○	
6	入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり	○	
7	身体機能の低下を補う配慮		○
8	場所間違い等の防止策	○	
9	生活空間としての環境の配慮		○

特記事項

- 共用空間は大変広く、開放的である。リビング壁面には入居者の作品やイベント時の写真が飾られ、心が休まる雰囲気作りがなされている。中庭やベランダにはベンチが設置され、庭には花や季節の野菜も植えられ、入居者自身がその手入れをするなど自由に楽しむ場が確保されている。
- 床はフルフラットで、車椅子の通るスペースが十分に確保されている。手すりは要所へ設置されているが、下部が空洞になっており、指を引っ掛けると怪我をする危険もあるので、穴埋めをするなど早急な改善が求められる。
- 各居室前にはリースや写真が飾られ、手書きの表札(名札)が掲げられなど、入居者のストレスを回避する工夫がなされている。
- ホーム1階のトイレ周辺に少し気になる臭いがあり、一度、排気(換気扇)点検をされるとよい。食事時などは静かすぎるように思われるので、BGMとして、リビングのテレビ・CDプレーヤーなどにより適当な音量の流すなど(入居者意見を聞きながら)やわらぐ空間演出を検討されてはどうか。

Ⅲ ケアサービス

番号	項 目	できている	要改善
10	入居者主体の個別具体的な介護計画	○	
11	介護計画の見直し	○	
12	個別の記録	○	
13	職員間での確実な情報共有		○
14	チームケアのための会議	○	
15	入居者一人ひとりの尊重	○	
16	入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア	○	
17	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
18	一人で行えることへの配慮	○	
19	身体拘束(行動制限)をしないケアの工夫	○	
20	食事作りへの入居者の参画と一人ひとりにあわせた課題	○	
21	個別の栄養摂取状況の把握	○	
22	食事を落ち着いて楽しむことのできる支援		○
23	個別の排泄支援と羞恥心への配慮	○	
24	個別の入浴支援と羞恥心への配慮	○	
25	理美容院の利用支援	○	
26	プライドを大切にした整容の支援	○	
27	安眠の支援	○	
28	金銭管理の支援	○	
29	ホーム内の役割・楽しみごとの支援	○	
30	医療関係者への相談	○	
31	定期健康診断の支援	○	
32	心身機能の維持	○	
33	トラブルへの対応	○	
34	口腔内の清潔保持	○	
35	服薬の支援	○	
36	緊急時の手当	○	
37	感染症対策	○	
38	ホーム内に閉じこもらない生活の支援	○	
39	家族の訪問支援	○	

特記事項

- 各種書類は整備されており、各職員は定められたルール下でそれらの書類を日々確認した上で、入居者それぞれの個性を活かしている。また、全体職員会議も月1回開催され、手厚いケアのための情報交換もなされている。
- 各種個人情報に関する書類等が、玄関の部外者から見える位置に置かれているため、保管場所の変更その他、何らかの工夫が求められる。
- 入居者の役割(調理、後片付け、畑仕事、花の水やり、洗濯物たたみ等)は数多くあり、「職員と協働」している姿があらこちらに見られる。
- 入浴は毎日(夕刻まで)できる。3日間入浴しない入居者にはこれを促している。
- 医療面では、ホームとして明石回生病院と提携している。週1回の訪問診療があり、同病院は入院医療の引受先にもなっており、入居者に与える安心感は大きい。

Ⅳ 運営体制

番号	項 目	できている	要改善
40	法人代表者、管理者、職員の協働	○	
41	入居者の状態に応じた職員の確保	○	
42	継続的な研修の受講	○	
43	ストレスの解消策の実施		○
44	退居の支援	○	
45	ホーム内の衛生管理	○	
46	事故の報告書と活用	○	
47	苦情への的確で迅速な対応	○	
48	家族とのコミュニケーション	○	
49	地域の人達との交流の促進	○	
50	周辺施設等の理解・協力への働きかけ	○	
51	ホーム機能の地域への還元	○	

特記事項

- 法人本部を中心に各ホームの施設長をトップとした地域色豊かな組織運営がなされている。職員の個人目標は「マイ・チャレンジ」に設定され、半年に一度、面談の中で評価・再設定がなされている。これらの体制において一般職員の意見を的確に反映できるような中間的人材の育成が求められる。
- 人事採用時には本社や他施設の研修を実施。外部研修に参加した職員は、他の職員にもこれを伝え共有化を図っている。抜き打ち的に施設長自らが“来訪者”となり、職員の入居者対応や接客対応を見るなど、第三者的視点を取り入れた取り組みがなされている。
- 近隣事業所との親睦会やグループホーム協会主催の勉強会に参加している。法人内部にもスーパーバイザーは存在するが、日常業務技術における指導体制に弱さが見られる。今後は法人内での階層別研修体制を強化するなど、グループでのネットワーク機能をさらに有効活用されるとともに、一般職員の日常的相談者を近隣外部者に求めるなど社外パートナーシップのさらなる充実に期待したい。
- 相談や苦情に応える体制ができており、家族側アンケートにも、積極的な意見・要望が多数みられる。
- 退去時には、家族やケアマネジャーを交えて話し合いの場を持ち、本人および家族ニーズを反映しながら退去先選定を行い、退去後の相談にも応じている。「CHIAKIほおずき」の他ホームへ移ることができるのも特長の1つである。
- 毎月発行する「ほおずきニュース」では、お知らせ事項やイベント(ミニコンサート・食事会・餅つき・バス旅行など)を案内している。また、ご家族には、入居者それぞれの写真とともに最近の様子をお知らせする手紙を送付している。

2. 認知症高齢者グループホーム 第三者評価報告書(WAM NET掲載用)

項目番号 第三者 自己	項 目	できて いる	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
I 運営理念 1. 運営理念の明確化						
1	1	○			「えみがこぼれる家庭…それが私たちのほこりです」の基本理念が掲げられている。運営方針については、入居者や職員が常によく見える共有スペースに分かりやすい言葉を用いて掲げられ、職員は運営方針に基づいて、それぞれ個人目標を設定している。	管理者は月に一度、主任は2ヶ月に一度、一般職員は3ヶ月に一度の本社研修を開催している。
2	3	○			「契約書」「重要事項説明書」に明記されており、入居者及び家族等に説明したうえで同意、署名を得ている。	契約書および重要事項説明書において「利用者代理人」の項目は削除され、「身元引受人」の条項が追加された。さらに「サービス利用料金の滞納」の条項も追加された。
2. 運営理念の啓発						
3	4	○			法人としてパンフレット、ホームページを作成し、運営理念の啓発を行っている。またホームとして「ほおずき通信」を毎月発行している。地元自治会に加入し地域向け見学会を開催したり、見学者やボランティアの受入れ等を随時実施、地域理解への取組みに力を入れている。	今年度のホームテーマは「丁寧・信用」であり、元気に挨拶し、丁寧な言葉使いと対応を心がけている。
I 運営理念 3 項目中 計		3	0			
II 生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり						
4	5	○			共用空間部分はたいへん広く、開放的な雰囲気がある。玄関や建物の周りには花・木が植えられ、菜園では季節野菜を育てている。玄関には陶器製の傘立て、共用空間には植木が置かれ、リビング壁面には入居者の作品や、イベント時の写真が飾られ、安心できる雰囲気になっている。	

項目番号 第三者 自己	項 目	でき ている	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
5	6	○			リビングの一面は一段高くなつた6畳ほどの畳スペースで、冬場にはコタツが置かれ、楽に上がり降りができ、座敷に座ったり寝たり自由ができる。リビングには机のほかにソファが置かれている。庭には花が植えられ一部は菜園になっており、自由に過せる空間が確保されている。	
6	7	○			使い慣れた家具や調度品、写真や作品等を自由に持ち込むことができ、自分自身の空間作りができる。	
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり						
7	9		○		床はフルフラットで車椅子の通るスペースが十分確保されている。手すりは要所へ設置されているが下部が空洞になっており、指を引っ掛けると怪我に至る可能性がある。	手すり下部の穴埋め対策には早急な改善が求められる。JR土山駅の階段手すりが参考になる。
8	11	○			各居室前にはリースや写真が飾られ、手書きの表札(名札)が掲げられている。トイレや浴室はわかりやすく表示され、トイレへの誘導マークが要所にある。	
9	12		○		光の強さやエアコンの温度調節は適切であるが、全体的に少し気になる臭いがある。リビングにはテレビやCDプレイヤーがあるが静かである。各居室にはエアコンが完備され、それぞれに室温調整ができる。	臭いについては、排気(換気扇)を点検されてはどうか。また、食事時には適当な音量のBGMを流すなど、やわらぐ空間演出に期待したい。
II 生活空間づくり 6項目中 計		4	2			

項目番号 第三者 自己	項 目	できて いる	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
Ⅲ ケアサービス 1. ケアマネジメント						
10	15	○			入居前後に、それぞれの個性を生かすよう、本人、家族、担当職員を交え、話し合いがなされた上での介護計画が作成されている。	
11	16	○			基本的に月に1回の見直しがなされ、実施期間終了(更新)時及びケアプラン開示時には短期目標と長期目標を明示した上で、家族と面会を実施し、体調変化時、ADL低下時にはケース会議が開催され、介護計画の見直しがなされている。	介護計画書とカンファレンスシートを使いやすくするよう、新しい書式を検討中。
12	17	○			日々の入居者の様子は、職員によって連絡ノートに細かく記載され、バイタル、服薬状況、食事や水分摂取量等の記録とともに個別ケース記録にまとめられている。赤字は夜間、青字は病院や家族との会話や連絡事項とする等、わかり易く工夫されて記載されている。	家族が訪問されたときの会話も記録として残しておく方が良いのではないかな。
13	18	○			業務日誌、連絡ノート、夜勤日誌等をもとに朝夕の申し送りや主たる計画については、月に一度の職員会議において周知される。職員会議に参加できなかった場合は、議事録等の回覧により、職員全員で内容を共有する仕組みになっている。	個人情報に関する書類が玄関(部外者)から見えるガラス書棚に整理されているため、配置変更や、見えないための工夫が求められる。
14	19	○			ユニットごとに月1回の職員会議が開催され、緊急時はその都度開催されている。1階ユニットと2階ユニット合同の全体職員会議も月1回開催され、情報交換がなされている。	

項目番号 第三者 自己	項 目	できて いる	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行						
15	20	○			職員は入居者一人ひとりの性格や行動パターンを把握し、穏やかに笑顔で接し、声掛けの際には、その人に適した会話を心がけ、入居者が納得できる対応をしている。	
16	23	○			情報カードを活用しながら入居者それぞれの経験や趣味、生活歴を把握し、それらをホーム内での役割分担(畑、園芸、調理、洗濯物たたみ等)として、わかりやすい形で実践している。	
17	25	○			職員は、入居者の人生の中で一番楽しくいききしていた頃の話をするよう心掛け、表情や話す調子を観察しながら話を聴き、本人の希望を一つでも答えられるように接し、希望が表出しやすくなるような取組みをしている。	食事メニューにも意見を取り入れている。
18	27	○			入居者の心身状態を確認しながら、行事や畑作りを教えてもらいつつ、畑仕事、調理、花の水やり等、手伝って頂けそうなことについては声かけを行い、見守りを中心に、職員と協働している。	
19	29	○			日中、玄関は開放されており、出入りは自由にできるが、夜間は防犯上21時～8時まで施錠している。入居者のホーム外への予定外行動には職員が同行している。	

項目番号 第三者 自己	項 目	できて いる	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
(2) 日常生活行為の支援 1) 食事						
20	31	○			旬の野菜や魚を取り入れ、入居者の希望を聞きながら体調や身体機能に合わせた調理を行い、買物、準備、味付け、盛り付け、配膳、片付けなどを入居者と協働している。また、誕生会では特別メニューとしている。	近くの鮮魚店が御用聞きに来ている。また、軽い物はスーパーに買出しに行き、重いものは地元の八百屋である業務スーパーに発注している。
21	34	○			できるだけ偏りの無い献立とし、摂取量チェック表を記録、日々の摂取カロリーと水分摂取量をおおまかに把握している。	
22	36	○			職員は観察、声かけ等を行いながら入居者と同じテーブルで食事を行い、スムーズに食がすすむよう食べこぼし等にはさりげなくサポートしている。TVやBGMがかかることなく、また会話もはずんでもいないため、大変静かな中で淡々と食事をしている。	BGMやTVを上手に活用しながら、話題を積極的に提供する工夫が望まれる。
2) 排泄						
23	37	○			職員は、個々の排泄パターンを把握しており、個別に声かけ、誘導を行っている。下着、おむつ、パッドは体調によって使い分けし、日々、排泄表に記録されている。排便チェックは入浴時に下着を確認したり、排便後の臭いのチェックなどを行っている。	
3) 入浴						
24	41	○			入浴は夕刻までなら毎日でも入れる体制にあり、入居者の自己選択である。バイタルチェックは必ず行い、入浴回数や時間とともに記録表に残している。3日間入らない場合は入浴を促している。	

項目番号 第三者 自己	項 目	でき ている	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
4) 整容						
25	43	○			近隣の行きつけの理美容院が2ヶ所ある。職員が送迎をし、本人の希望に合わせたカットをしている。出張理美容は1年前までお願いしていたが、事情により、現在はしていない。	
26	44	○			声掛け、誘導により、さりげなくカバーしている。外出や面会時には職員も気を配っている。衣類は家族が持ってきたり、入居者が職員とともに買いに出かけている。	
5) 睡眠・休息						
27	47	○			職員は、入居者それぞれの入床・起床時間を把握している。日中は散歩、買物等の外出、それぞれの役割を行うことにより、できるだけ運動を中心にした1日の生活リズムづくりを行っている。	
(3) 生活支援						
28	51	○			預かり金は1万円程度とし、個別に金庫に保管。買物に職員が同行し、入居者自身が支払うことにより、金銭感覚の把握をしている。レシートの保管とともに、入居者別に金銭出納帳に記録した上で、「ほおずき通信」と共に担当者がコメントを書き添え、月に一回家族に報告している。	
(4) ホーム内生活拡充支援						
29	53	○			入居者の生活暦からそれぞれに役割を持ってもらっている。例えば、調理、後片付け、畑仕事、花の水やり、洗濯物たたみ、などであり、手伝って頂けそうなことについては声かけを行い、職員とともに協働している。	地元独特なことは、入居者に教えて頂くことが多い。

項目番号 第三者自己	項 目	でき ている	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
(5) 医療機関の受診等の支援						
30	55	○			グループホームとして明石回生病院と提携し、週1回の訪問診療を受けている。結果的に入居者の主治医となる事が多い。入院医療機関も明石回生病院が引受先となっている。	提携医療機関は 総合…明石回生病院 内科…明姫診療所 歯科…上山歯科医院
31	61	○			定期健康診断は提携医療機関で実施している。	認知症に関する協力医は橋本クリニックを確保している。
(6) 心身の機能回復に向けた支援						
32	63	○			職員は入居者それぞれの精神症状を把握しており、ケースごとに原因究明と対処方法を話し合っている。その人に合った声かけをする工夫が見られ、日常生活の中で、その人ができる役割を取り入れることにより、心身機能の低下防止策を実践している。	
(7) 入居者同士の交流支援						
33	65	○			職員は、トラブルの未然防止に努めているが、トラブルがあった場合は、職員が中に入り、意図的に場面を変える等の対処を行い、早急に職員会議を開催し、対処法を話し合っている。	
(8) 健康管理						
34	67	○			声かけにより、食後のうがい、歯磨き、入れ歯の手入れを日常的に実施している。	

項目番号	項 目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
35	70	○			入居者別に医師の指示や薬の効果が記載された薬ファイルを作り、個別にチャック付き袋に入れた上で、施錠できるロッカーに保管されている。職員が、薬の管理、服薬の確認を行い、記録表に記載している。	
36	72	○			緊急時マニュアルがあり、月に1回勉強会が開催され、職員全員に周知徹底されている。また、救急救命講習は、同法人の別事業所で開催される講習会等を積極的に受講している。	
37	73	○			感染症マニュアルが整備され、対応方法が徹底されている。	
3. 入居者の地域での生活の支援						
38	77	○			日々の買物や散歩、合同ボーリング大会、催し物への参加等に職員同行で出向いており、ホーム内においてもそれぞれの役割を中心に、野菜作り、洗濯物干し等できるだけたくさんの屋外行動を取り入れている。	
4. 入居者と家族との交流支援						
39	81	○			ホーム主催の各種行事(バス旅行や季節行事)において、家族のお手伝いを募るなど、家族が訪問しやすい仕掛け作りを行っている。家族等の訪問時は、できるだけ落ち着いて一緒に過せるよう、職員の配慮が見られる。	
Ⅲ ケアサービス 30項目中		計	28	2		

項目番号 第三者 自己	項 目	でき て い る	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
IV 運営体制 1. 事業の統合性						
40	83	○			法人本部を中心に組織運営がなされており、各ホームの施設長をトップに、理念に基づいた特色のあるケアを工夫、努力し、それぞれのカラーを出すことができている。個人目標は「マイ・チャレンジ」に設定されており、上司とのコミュニケーションツールとして、半年に一度、面談の中で評価・再設定がなされている。	施設長を中心に地域に応じたカラーに基づいた運営が特徴的であるが、施設長カラーが濃くなりすぎないことが望ましく、一般職員の意見を的確に反映できるような中間的人材の育成が求められる。
2. 職員の確保・育成						
41	87	○			入居者の生活ペースに合わせたローテーションをとり、日々フロアリーダを設定している。また、夜間対応時に備え、1階ユニットと2階ユニット間で情報交換がなされている。	
42	89	○			採用時には本社研修・他施設研修を実施している。外部研修に参加した職員は、他の職員に対し研修事項を報告し、共有化を図っている。	抜き打ち的に施設長自らがお客様になり、職員の入居者対応や接客対応の様子を見る等、第三者的視点を取り入れた取り組みに工夫が見られる。
43	91	○			近隣事業所との親睦会がある。またグループホーム協会主催の勉強会に参加している。法人内部にもスーパーバイザーは存在するが、日常における業務スキル向上指導機能に弱さが見られる。	法人内での階層別研修体制を強化するなど、法人グループネットワーク機能をさらに有効活用されるとともに、一般職員の日常的相談者を近隣外部者に求めるなどパートナーシップのさらなる充実に期待したい。
44	95	○			家族やケアマネージャーを交えて話し合いの場を持ち、本人ニーズおよび家族ニーズを反映しながら退去先の選定を行っている。また、退去後の相談にも応じている。	法人ネットワークを活用して、法人内の他のグループホームへ移ることができるになっている。

項目番号 第三者 自己	項 目	でき て い る	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
4. 衛生・安全管理						
45	98	○			手洗い、うがいの励行、布巾やまな板は毎日消毒を行い、特に注意を要する物品の保管については、保管場所を定め、常に管理している。ごみは速やかに処理し、最終処理は業者に委託している。	
46	102	○			事故報告書、緊急時対応マニュアル、緊急連絡網が整備され、事務室で常に見るようにしている。また、月1回、勉強会のテーマとして取り上げ、職員による話し合いがされている。	
6. 相談・苦情への対応						
47	106	○			相談や苦情を積極的に受ける体制作りができており、家族アンケートにおいても、意見・要望が多数出てきている。中でも、親しみやすい雰囲気・要望が伝えやすいなど、ホームとして家族側から積極的に伝えやすい環境作りがされている。	
7. ホームと家族との交流						
48	107	○			毎月、「ほおずき通信」を発行し、お知らせ事項やイベント(バス旅行・食事会・クリスマス会・餅つき・そうめん流しなど)を案内するとともに、入居者それぞれの最近の様子などの情報を書き入れ、写真とともに送付している。また、家族がホームへ来やすい仕掛け作りも見られる。	家族の訪問は多く、各種イベントへの家族参加も多い。最近は家族同士の会話も増えてきている。1月に開設3周年記念行事を予定している。
8. ホームと地域との交流						
49	112	○			自治会に加入し、施設長自らいきいきサロンへボランティアとして参加しており、自治会長や老人会会長との親交も多い。また地元ボランティアグループの受け入れも多く、地域住民との交流が盛んに行われ、地域の中でも知られた施設となってきた。	園芸ボランティア、沖縄舞踊、フラダンス、日舞、琴演奏などのボランティアがある。また、併設するデイサービスを使用し、パソコン教室、書道教室、カラオケなども行っている。

項目番号 第三者 自己	項 目	できて いる	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
50 114	○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)	○			できるだけ地元の業者や商店と関りを持つことにより、理解を得ている。また消防等への働きかけをしながら、6ヶ月に1回の消防訓練を実施するなど、ホーム周辺への働きかけが積極的である。	
51 115	○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、認知症ケアに関わる知識・技術等を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等)	○			ボランティアの受入れは多く、研修や見学者等の受入れも行っている。地域において存在感のある施設になりつつあるが、今後も更に地域に対する開放の実践を期待したい。	近隣自治会や住民等を対象とした定期的勉強会を開催するなど、施設のメリットを上手に利用した積極的開放の仕掛け作りと実践に期待したい。
IV 運営体制 12項目中 計		12	0			

- (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
(2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。